

山梨県立ろう学校PTA新聞



# ふ え ぶ き

No.  
28

山梨県山梨市大野1009  
TEL 0553-22-1378  
FAX 0553-22-6419

令和5年3月1日 発行



## 「創立百周年を迎えて」

PTA会長 小林美由紀

今年度もあっという間に終わろうとしています。新型コロナウイルス感染症の収束は見えませんが、徹底した感染症対策を行い、行事や学習を安心、安全に実施することができたことに感謝申し上げます。また、コロナ禍で保護者同士が顔を合わせる機会は減っていますが、安全に十分注意しながらPTA活動を計画することで、保護者同士の関係も保ち、子どもの支えになれば、と考えております。

今年度、特に心に残っているのは笛吹祭です。素晴らしい演技に子どもたちの努力が伝わってきました。また、頑張る姿に成長を感じ、心が揺さぶられました。全校生徒が体育館に集まり、お互いの演技を見ることは3年ぶりでした。上の学部の演技を見ることで、あこがれを抱き、自分の将来を重ねる機会になったのではないのでしょうか。

山梨県立ろう学校は今年度百周年を迎えました。その年にPTA会長であったことを誇りに思います。ろう学校の伝統をさらに引き継いでいけるようにPTAとしても後押ししたいと思います。



## 令和4年度を振り返って

校長 木村 則夫

春寒も緩みはじめ、ようやく過ごしやすい気候となり、本年度も残り僅かとなって参りました。

皆様におかれましては、日頃より本校PTA活動に御尽力いただき、誠にありがとうございます。

本年度は、3年間本校の校長を務めていただいた岩崎雄治校長先生のと引き継ぎ、様々なことがありました。3学期制から前期後期となる2学期制への移行、学校運営協議会のスタート、創立100周年記念式典、関東地区聾教育研究会定例研究会主管校など、長い期間準備をしてきたことを実施する一年となりました。

本校は現在の山梨日日新聞の記者であり、歌人である塚原等先生が大正8年に設立した私立山梨訓盲院に、大正11年聾部を設置し、私立山梨盲啞学校と改称されたのが前身となっています。昭和6年に県に移管、昭和24年に盲学校と分離し聾学校となりました。昭和26年には山梨市万力に、昭

和54年に現在地に移転しています。これまで多くの幼児児童生徒が本校で学び、学び舎を巣立っていきました。保護者の皆様をはじめ、様々な方の支えがあったことを式典で実感しました。次の100年に向けて、幼児児童生徒の豊かな成長の場となり、県下の聴覚障害のある乳幼児や児童生徒に切れ目ない支援と専門的な教育を行っていくことがろう学校の大きな使命であり、今後も「たくましく生きる力と確かな言語力」を育て参りたいと考えています。

全国一斉臨時休業から3年目を迎え、笛吹祭では当該学部の保護者のみでしたが、学校生活の様子を直に参観できるようになってきました。本年度の生徒会スローガン「一致団結～楽しい学校を創造(クリエイト)～」は、制限のある学校生活の中で、いかに思い出に残るものにするか、入学式が大きく延期された小林生徒会長の切なる願いだったと思います。未だ終わりの見えない状況ですが、充実した学校生活を送れるよう、引き続きご支援ご協力をお願いします。

## PTA研修会

新保 身江

今年度の研修会は、6月に信州大学の庄司先生、11月に動画配信サイトからの視聴で筑波技術大学の脇中先生より講演をしていただきました。お二人の先生から、難聴児への家庭での関わりや親の役割、社会で自立した人間として生きるために高

い日本語力や学習言語を獲得することを念頭に置いた関わりが必要であるということについて教えていただきました。今、我が子がどのように関わっていけば良いか具体的に学ぶことができ、とても勉強になりました。





## 幼稚部

## 1年を振り返って

秋山 真衣

昨年度に続き、コロナの影響を受けながらも前向きに学校生活を送る事ができました。先生方が試行錯誤して下さり、沢山の行事や様々な体験ができました。暑い中、透明マスクをして子供達に、口の動きや表情を見せて接して下さった事にも感謝しています。幼稚部に入學してからの3年間は、長いようであつたという間でした。入學した頃は、話す事がほとんどできなかった娘が沢山の言葉を



覚えて、自分の気持ちを伝えてくれる様になりました。みんなに合わせて鍵盤ハーモニカを弾いたり、劇で台詞が言える様になり歌も歌える様になりました。幼稚部での経験が自分の自信に繋がって色々な可能性を広げてくれると思います。親子で乗り切った3年間は、一緒に向き合っただ下さった先生方、お友達、そして共に笑って泣いて支えてくれたママ達のお陰で楽しく過ごす事ができました。ありがとうございました。



## 修学旅行の思い出

中学部3年 望月 稜弥

1年間で私の1番の思い出は、修学旅行です。6月22日から24日まで、愛知・奈良・京都へ行ってきました。1日目の名古屋では、トヨタ産業技術記念館で、車の歴史や紡織について知ることができました。またリニア鉄道館では、たくさんの電車や新幹線を見学したり、新幹線の操縦体験をしたりすることができて楽しかったです。名古屋のホテルはとってもきれいで食事もおいしかったです。

2日目は、東大寺と奈良公園へ行きました。東大寺の大仏は想像していたよりもとても大きかったです。東大寺の御朱印をもらうことができました。おみくじをひいたら、私は「吉」でした。奈良公園では、鹿がたくさんいてびっくりしました。鹿せんべいをあげたら、山口先生や友だちが追っ

かけられて、面白かったです。奈良のホテルは和風で、私たちが泊まったのはロイヤルスイートルームでした！

3日目は、京都の宇治市にある平等院へ行きました。十円玉と同じ鳳凰堂を背景に、皆で記念写真を撮りました。平等院の御朱印ももらいました。帰り道に、お茶屋さんで宇治のお茶やお団子などを家族のお土産に買いました。家族は皆とても喜

んでくれました。修学旅行は中学部生活の中で、私にとってかけがえのない思い出となりました。



## 中等部

## 寄宿舎

## 生活を共にする

主任寄宿舎指導員 丸山 貴子

寄宿舎のお風呂は家とは違い広く、浴槽は深く大きいです。毎日の掃除は、しなければならぬと分かっているが大変。夏は良いけれど、冬はとても厳しいです。入舎三年目のRさんは、当番のメンバーが現場実習中で不在だった時、毎日やってくる風呂掃除にさすがに音を上げました。「今30秒で浴槽掃除ができる洗剤あるよね」その一言から全員

の話し合いに広がり、試してみようとなりました。「簡単！」「これなら僕もお風呂掃除ができる！」と前向きな気持ちに早変わり。生活の中で気づいたことを仲間と共に考え工夫し、みんなが気持ちよく暮らせること、それを実感し、その実感を仲間と共有できる体験となりました。





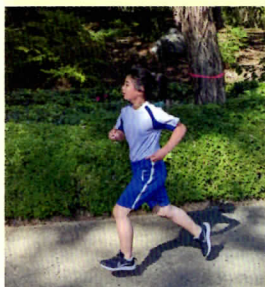
# 小学部

## 1年を振り返って

重村 春香

小学部に入学して早4年が経ちます。

今年は、笛吹祭や持久走大会もコロナ対策をしながら行われ、少しずつ以前のように子供達の様子を見られるようになりました。時間が止まってしまった様なコロナ禍の3年間でしたが、子供達は



日々成長しているんだな…と改めて感じて胸が熱くなる思いになりました。

小学部で毎月1回各家庭に配布される「ひろば」を読むと、自分の気持ちや文章をととても分かりやすく書けるようになったと毎回感

心し驚きます。子供から言葉を引き出して丁寧に粘り強く指導して下さる先生方に頭の下がる思いです。

娘の学年は1人しかいないので寂しいのかな…と心配に思っていた親の思いとはうらはらに、毎日楽しく元気いっぱいにはじけるような笑顔で学校生活を送れているのは、良い仲間や先生方にめぐり会えたからだと思います。この調子で残りの小学校生活も充実した日々を過ごしていきたいように家庭でもサポートしていきたいです。



# 我が成長

高等部3年 小林 昌広

昨年度、勇気を出して生徒会長に立候補しました。自分を成長させたい気持ちがあったからです。話し合いの時に発言したり、大勢の前で発表したりすることが苦手だったので、克服していきたいと考えました。

生徒会長になってからの一番の思い出は笛吹祭です。なぜならば、生徒会長が実行委員長を兼ねるため、苦勞はいろいろとありましたが、最終的に成功させることができたからです。実行委員会は、開祭式・閉祭式の進行を担当しました。乳幼児から高校生が参加するため全員が楽しめるような演出を、実行委員会のみんなと知恵を絞りました。その結果、閉祭式では大



# 高等部

きなたまごの模型に多くの風船を入れて、たまごが割れると風船が飛び出すようにしました。この演出には、ろう学校の全員が成長し、未来へはばいてほしいという願いを込めました。風船が飛び出すと、みんなが笑顔になりました。今までの努力が報われたと思い、嬉しい気持ちになりました。

生徒会長になったことで、責任感が芽生えました。過去の私と異なり、今は率先して意見を述べるようになったり、計画的に取り組むようになったりするなど成長を実感できました。今後も失敗を恐れずにまずは挑戦していきます。



# おめでとうございます

★小林美由紀PTA会長が「聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会」より表彰されました。長きに渡り、聴覚障害のお子様の子育てに邁進され、保護者の方々と共にPTAでも活動してこられました。その努力と功績を称えての表彰となります。おめでとうございます。



★令和4年度のPTA新聞が第17回広報誌コンクールにおいて奨励賞をいただきました。本校のPTA活動を多くの方々知ってもらおう機会となりました。



# 編集後記

発行に際し、先生方、保護者の皆さまに御協力をいただき、感謝しております。ありがとうございました。楽しんでお読みください。

## PTA理事

渡邊 明美・青野 華子  
渡邊しのぶ・矢崎 美樹





**幼稚部** だいすき！をちからに

矢崎 美樹

絵本が大好きな息子へ家でも名作絵本を読み聞かせました。1人で黙々と読むほど大好きになりました。そんな折に笛吹祭の演目がさるかに合戦に決まりました。自身の役は力持ちの白。かっこいい！とやる気満々。とはいえ幼稚園児、練習では色々あった事でしょう。先生方の並々ならぬご尽力のおかげで、本番では自分の番を待ち「どっしーん」と力いっぱい白役を演じ切る事が出来ました。息子にとっても、これから成長していく糧となる経験になった事でしょう。先生方、一緒に演じたお友達、保護者のみなさまありがとうございました。

**小学部** だろぼう学校 渡邊しのぶ

今年もコロナ禍の為、縮小での開催でした。台詞の言い回しや動きなど練習を積み重ね、ユーモアたっぷりの温かみのある劇だったと思います。また良い緊張感をもって堂々と演技する姿を観て大きな成長を感じました。最後のステージ幕が閉じる際、息子がピースをした事にちょっと安心しました。それは私が朝、緊張をほぐす為は何気なく言った冗談を覚えていたのです。長かった緊張が終わった一瞬だったのかな？と思いました。日々、子供達を見守りながらご指導して下さった先生方に感謝しております。ありがとうございました。



**第32回 笛吹祭**

みんな主役だ 力を合わせよう  
2022!

**中学部** 結末の笛吹祭 青野 華子

今年もコロナ禍が続く中、どの学部も笛吹祭で何ができるのかを探っていたと思います。中学部でも練習を何度も重ねて頑張りました。発表は修学旅行の思い出を取り上げました。旅の楽しさと三人の結末が会場に伝わったかと思っています。やはり直に観ることができてよかったです。

他学部の成長も、生き活きとした表現から伝わりました。特に高等部は、心の葛藤を上手く伝えてくれました。中学部にとっては良きお手本です。多くの人に何かを伝える難しさとお手本です。多くの人に何かを伝える難しさとお手本です。また次回も心待ちにしています。



**高等部** 初めての笛吹祭 渡邊 明美

地域の中学校からろう学校に入学し、手話も使う事が出来ませんでした。仲間と先生方と接する内に、3、4ヶ月で手話を覚える事が出来ました。生活環境が変わりましたが、新しい生活にもなれ、「笛吹祭」といった行事に参加する事が出来ました。仲間と協力して工夫し、時には悩み、めげる事もありましたが、高等部が先頭になり、仲間との絆も深まる姿はとても輝かしかったです。この「笛吹祭」は、子どもたちの成長を感じた素敵な時間でもありました。仲間と先生方と協力し「笛吹祭」を成功させる事が出来ました。ありがとうございました。



**手話講習会**

網倉 美穂

コロナウイルス対策を行いながらの開催でした。個人のレベルに合わせて、初級と中級の二部制に分けて行いました。回を重ねるごとに講師の植田先生と手話や口話を使つてのコミュニケーションが少しずつスムーズにできるようになった実感がありました。和やかな雰囲気の中、質問や時事の話題、障害手続きに関する情報なども飛び交い、充実した講習会だったように思います。



**フードドライブ**

徳永 浩美

本校PTAで取り組んでいるフードドライブも、今年で5年目になります。食品ロス削減を心がけることにより、一人でも多くの命を救うことができると思います。1回目も2回目もたくさん食品が集まりました。ニュースを見ても助けを必要としている方は沢山います。この取り組みを大切にして今後も続けていきたいです。今後も無理せずご協力をお願い致します。

